

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	長野県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	飯山市立第一中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	3	12	24
生徒数	101	96	100	20	317	

研究の概要

1. 研究主題

「考える力」をはぐくむ授業の創造
------------------

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生・国語                      昨年の研究成果をもとに、文学的な文章の的確な読み取りを深めるため。</li> <li>・2年生・数学                      習熟の程度による少人数学習の有効性を研究するため。</li> <li>・2年生・理科                      問題解決的な能力を高める指導方法を開発するため。</li> <li>・3年生・英語                      個に応じて伸びる力を一層伸ばす学習展開を研究するため。</li> </ul>
---

(2) 年次ごとの計画

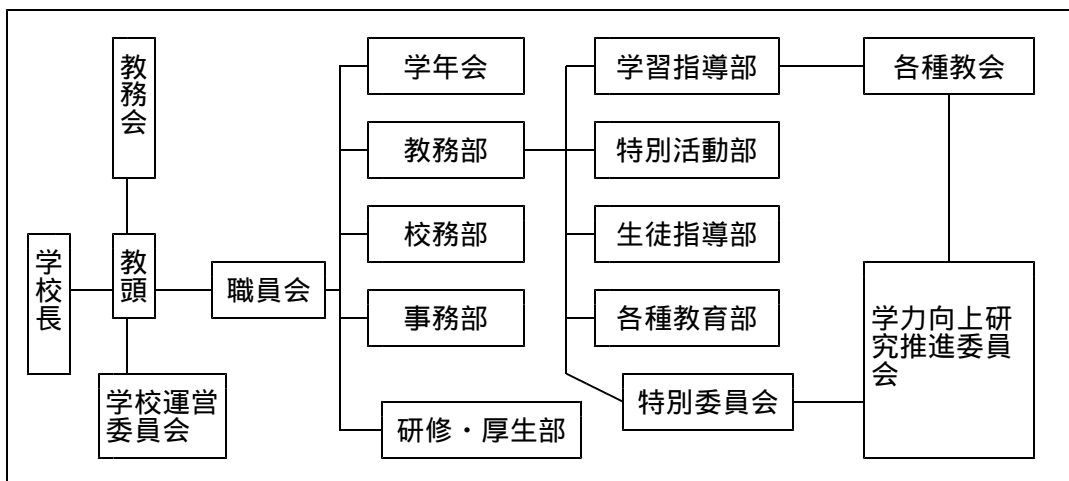
平成14年度	<p>テーマ                      「考える力」をはぐくむ授業の創造                      [基礎的・基本的な内容の定着と「考える力」をはぐくむ学習の指導と評価]                      研究の見通し(仮説)                      ・生徒の実態把握をもとにした指導に生かす授業改善                      ・基礎的・基本的な内容と、自らの問いを発し自ら答えを導き出す力(考える力)の決めだし                      研究の内容・方法                      1 客観的な評価を指導に生かす取組                      (1) 全国標準診断的学力検査(NRT)の実施                      (2) 学力診断テスト(信濃教育会出版部発行)の実施                      (3) 各教科で単元評価計画表の作成                      2 基礎的・基本的な内容の定着と個に応じた指導体制を図る取組                      (1) 読解力を高める朝読書の実施                      (2) 英語科・数学科における習熟度の程度による少人数学習の実施</p>
--------	--

平成15年度	<p>テーマ                      「考える力」をはぐくむ授業の創造                      [基礎的・基本的な内容の定着と「考える力」をはぐくむ学習の指導と評価]                      研究の見通し                      ・生徒の実態把握をもとに指導に生かす授業改善                      ・基礎的・基本的な内容の定着と、自らの問いを発し自ら答えを導き出す力(考える力)の育成を図るための、手だての工夫                      ・習熟の程度に応じた少人数学習の指導方法の開発(今年度追加事項)</p>
--------	---

	<p>研究の内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 客観的な評価をもとに指導に生かす取組             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 全国標準診断的学力検査（NRT）の実施と昨年度との比較</li> <li>(2) 基礎学力の定着に焦点を当てた実力テストの実施</li> <li>(3) 各教科における単元評価計画表の修正と教材開発</li> </ol> </li> <li>2 基礎的・基本的な内容の定着と個に応じた指導体制を図る取組             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 重点教科を4教科（国語、数学、理科、英語）とする。</li> <li>(2) 英語科・数学科における習熟度の程度による少人数学習の手だての工夫</li> </ol> </li> <li>(3) 学習理解の定着を図る家庭学習の工夫</li> </ol>
--	---

平成16年度	<p>テーマ 「考える力」をはぐくむ授業の創造</p> <p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の実態把握をもとに指導に生かす授業改善</li> <li>・基礎的・基本的な内容の定着を図る継続的な指導</li> <li>・自ら問いを発し自ら追究する「考える力」をはぐくむ授業の構築</li> <li>・必修教科の学習と選択教科、総合的な学習との関連を図る教育課程</li> </ul> <p>研究の内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 わかる授業，意欲的に取り組む授業作り             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 対象を全教科とする。個に応じた指導の教材開発</li> <li>(2) 粘り強い追究を促す支援と，学びを自覚する自己評価の工夫</li> <li>(3) 学習の定着と次の学習につながる家庭学習の支援</li> </ol> </li> <li>2 指導と評価の一体化をめざす指導体制の工夫             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 全国標準診断的学力検査（NRT）の実施と経年比較</li> <li>(2) 基礎的な学力に焦点を当てたテストの実施</li> <li>(3) 年間指導計画の見直しと，一時間一目標のつける力の明確化</li> <li>(4) 学びの意義や目的を単元導入時に示し，追究の深まりを促す単元展開 評価規準に照らした授業中の評価のあり方</li> </ol> </li> </ol>
--------	---

(3) 研究推進体制



## 平成15年度の研究の成果及び今後の課題

### 1. 研究の成果

- (1) 客観的な評価をもとに指導に生かす取組について  
NRTの結果分析を行い、昨年との比較を加えて生徒の実態を明確にすることができた。また、結果をもとに各教科の指導の方向を決め出し、つける力を焦点化して指導の改善を図ることができた。  
各教科で、基礎的な学力向上を図るテストを開発した。  
国語科…漢字や課題作文など  
社会科…地名や歴史上の人物など  
数学科…基礎的な計算や、方程式、割合などの計算など  
理科…実験器具の用語や、課題に対する実験計画の作成など  
英語科…ヒアリングや、課題作文など  
その結果、漢字検定や英語検定に合格する生徒が増加した。  
前年の学習を振り返り、今年度の重点を踏まえて単元評価計画表を修正した。
- (2) 基礎的・基本的な内容の定着と個に応じた指導体制を図る取組について  
重点教科の取組  
国語科…詩の読解において、共通教材で詩の読解の基礎をおさえ、次の段階で個人追究教材を提示し、個の読み取りをもとにグループで深め合う指導方法を開発した。(1年生)  
数学科…習熟の程度に応じた少人数の学習において、筋道を立てて説明する力を高めるために、ワークシートや出店方式の指導方法を開発した。(2年生)  
理科…自然事象のモデルをわかりやすく示す実験方法を開発し、予想を立てて追究する学習を行った。(2年生)  
英語科…習熟の程度による個に応じた教材の開発を行った。発展コースではProblem solvingの開発と教科書教材を生かしたInformation Transferの工夫を行った。基礎コースでは、実践的な場面を生かしたShort Speech,教科書音読を重視するブランク音読を行った。(3年生)  
数学科、英語科では習熟度の程度に応じた少人数の学習形態や指導方法を改善することができた。  
家庭学習の仕方や具体例を紹介するパンフレットを作成・配布した。また、提出ノートにコメントを加えて継続を促す指導を行った。

### 2. 今後の課題

- (1) わかる授業、意欲的に取り組む授業の創造に向けて  
教えることと考えさせることを明確にした学習を進める必要がある。  
(基礎的・基本的な内容の定着を図る学習と「考える力」をはぐくむ学習を単元計画に位置づける。)  
生徒一人一人にコミュニケーション能力を高める必要がある。  
(学習形態を工夫したり友と学びあう場を設けたりして、自分の考えをわかりやすく伝えることができるようにする。)  
生徒の実態に応じて伸ばす力を一層伸ばす学習を進める必要がある。  
(発展コースの学習形態や選択教科の学習内容の改善を図る。)
- (2) 指導と評価の一体化をめざす指導体制の改善  
NRTの結果をもとに年間指導計画を見直し、つける力や、特に伸ばしたい力を決め出し、重点的や指導や焦点的な指導を図る必要がある。  
生徒が学ぶ意義や目的をもって学習に取り掛かるようにしていく必要がある。(単元導入時にガイダンスや実態調査を行う。)  
生徒自身が学びの深まりを自覚し、次の学習への意欲がもてるような自己評価のあり方を究明する必要がある。

学力把握のための学校としての取組

- 1 全国標準診断的学力検査（NRT）  
生徒の学力実態を把握するため、5教科、4月の年度当初に実施。
- 2 学力診断テスト（信濃教育会出版部発行）  
3年生の学力達成状況を把握するため、5教科、11月に実施。
- 3 校内自作の基礎学力テスト（年3回）  
基礎学力の定着状況を把握するため、3学年5教科、学期に一回実施。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

公開授業研究会の開催  
 日時・・・平成15年10月17日 場所・・・飯山市立第一中学校  
 対象・・・北信地区の教諭，地域の方，保護者  
 研究会の目的・・・2年間の研究成果と4教科（国語，数学，理科，英語）の授業  
 公開  
 講演会 市川伸一先生 「人間力を育む学校，地域，保護者」

授業研究会  
 ・国語科授業研究会（7月10日，飯山市立第一中学校にて）  
 個に応じた指導のための教材開発  
 ・数学科授業研究会（6月27日，飯山市立第一中学校にて）  
 習熟の程度による少人数学習の指導方法の開発  
 地区協議会  
 第一回北信地区研究協議会（6月26日，長野県合同庁舎にて）  
 北信地区フロンティアスクールの中間報告会  
 第二回北信地区研究協議会（2月9日，長野県合同調査にて）  
 平成15年度の成果と課題についての協議  
 小学校との連携による研修会  
 第一回学力向上研修会（5月7日，飯山市立第一中学校にて）  
 推進計画の審議  
 第二回学力向上研修会（8月18日，飯山市立飯山小学校にて）  
 各自のレポートをもとに研究中間発表会  
 第三回学力向上研修会（2月4日，飯山市立第一中学校にて）  
 各自のレポートを製本して研究発表会  
 HPの作成  
 飯山市立第一中学校のホームページに学力向上にかかわる資料を掲載している。  
 （<http://www.iiyama-catv.ne.jp/~daiichi/>）

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】               3学級以下                       4～6学級  
                                   7～9学級                       10～12学級  
                                   13～15学級                    16学級以上
- 【指導体制】               少人数指導                       T・Tによる指導  
                                   その他
- 【研究教科】               国語               社会               数学               理科  
                                   外国語            音楽               美術               技術・家庭  
                                   保健体育        その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有               無